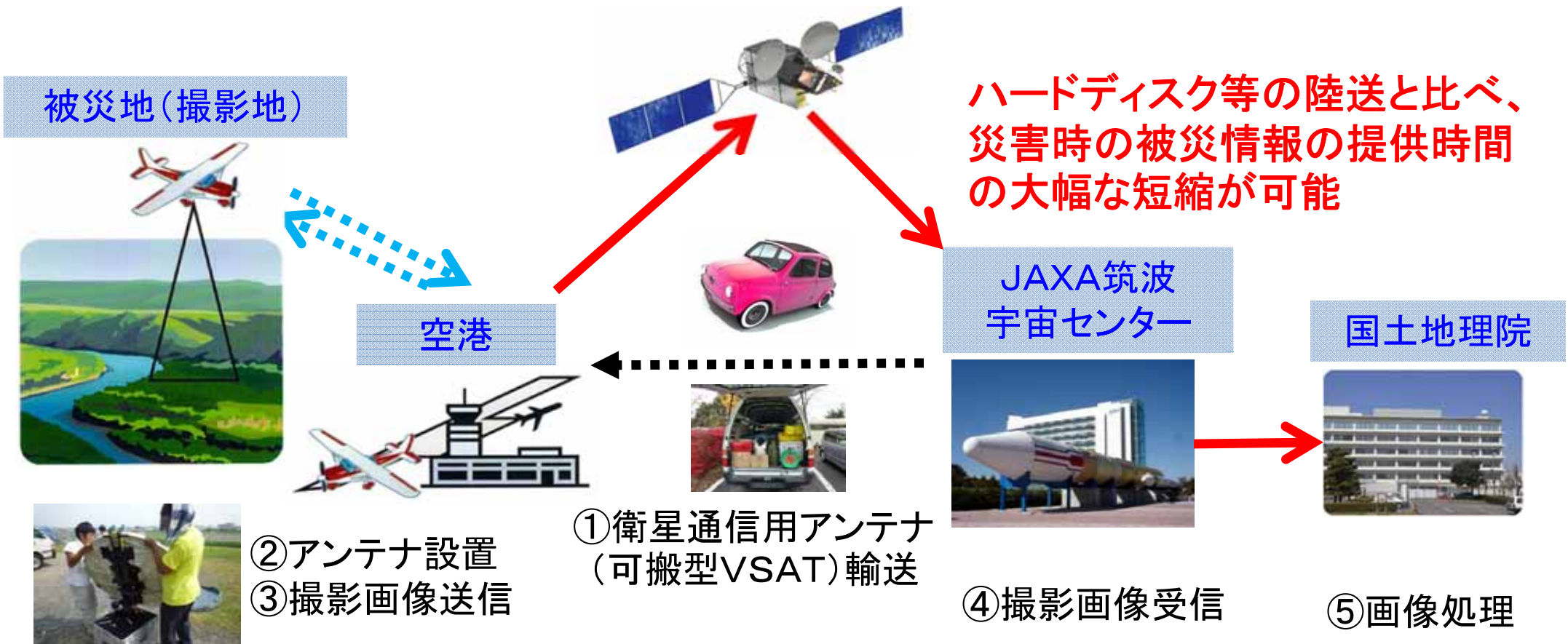


- ① 航空写真の緊急伝送（協定相手方：国土地理院）
- ② 災害派遣医療チーム（DMAT）への通信手段提供  
（協定相手方：災害医療センター）
- ③ 日本医師会の災害医療活動支援（協定相手方：日本医師会）
- ④ 自治体への非常通信提供（協定相手方：県、政令指定都市）

# ①航空写真の緊急伝送(国土地理院)

大規模災害発生時、国土地理院は状況に応じ、測量用航空機「くにかぜ」を使用して航空写真の緊急撮影、航空機搭載型SARおよび航空レーザスキャナによる観測を実施、迅速に被害情報等を関係機関に提供する予定

⇒ 取得した大量のデータの早期展開のため、車両輸送に代わり、「きずな」通信を利用



- ・地球局の輸送・設置・運用は国土地理院が実施。これまでの訓練で地球局操作スキルを習得。
- ・今後も地球局操作スキルの維持・向上のためJAXAと地球局操作訓練を年3回程度実施。

## ②DMATへの通信手段提供(災害医療センター)

広域災害発生時、速やかに災害派遣医療チーム(DMAT)が広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)へ派遣される

- 災害派遣医療チーム(DMAT)では、イリジウム携帯、BGAN(インマルサット)を装備
- 複数パソコン端末でアクセスし効率的に作業するには、高速通信が不可欠
- 特に、災害時に輻輳による通信速度低下が生じないシステムが必要



### 災害医療センターとの協定に基づくDMAT事務局への非常通信提供

- (1) 広域災害発生時、SCUでの通信のためきずな地球局を1~2局を目途にDMATに貸与
- (2) 地球局1台を災害医療センター(立川)に貸与中。他も発災後6時間までに筑波宇宙センターで引渡しできるよう準備。
- (3) 地球局の輸送・設置・運用はDMATが実施。JAXAと地球局操作等の訓練を年5回程度実施。

# 平成26年度広域医療搬送訓練

8月30日に、大分市スポーツ公園に設置された広域医療搬送拠点(SCU)がインターネット通信が途絶したことを想定し、「きずな」で医療搬送に必要なデータベース(EMIS)への接続を実施。

## 「きずな」通信回線概要 <DMAT事務局と共同実験>

「きずな」は大容量通信可能であり、多数の利用が可能

大分県

大分スポーツ公園SCU

自衛隊ヘリ地球局  
 長距離輸送

松山空港  
 USAT搭載

DMAT隊員による機器設営  
 ・運用の訓練

可搬型地球局(USAT)

EMIS・MATTISによる  
 情報発信と共有  
 (インターネット)

JAXA  
 筑波宇宙センター

災害医療センター  
 立川 (USAT保管)

インターネット接続  
 (他のSCU等との通信)

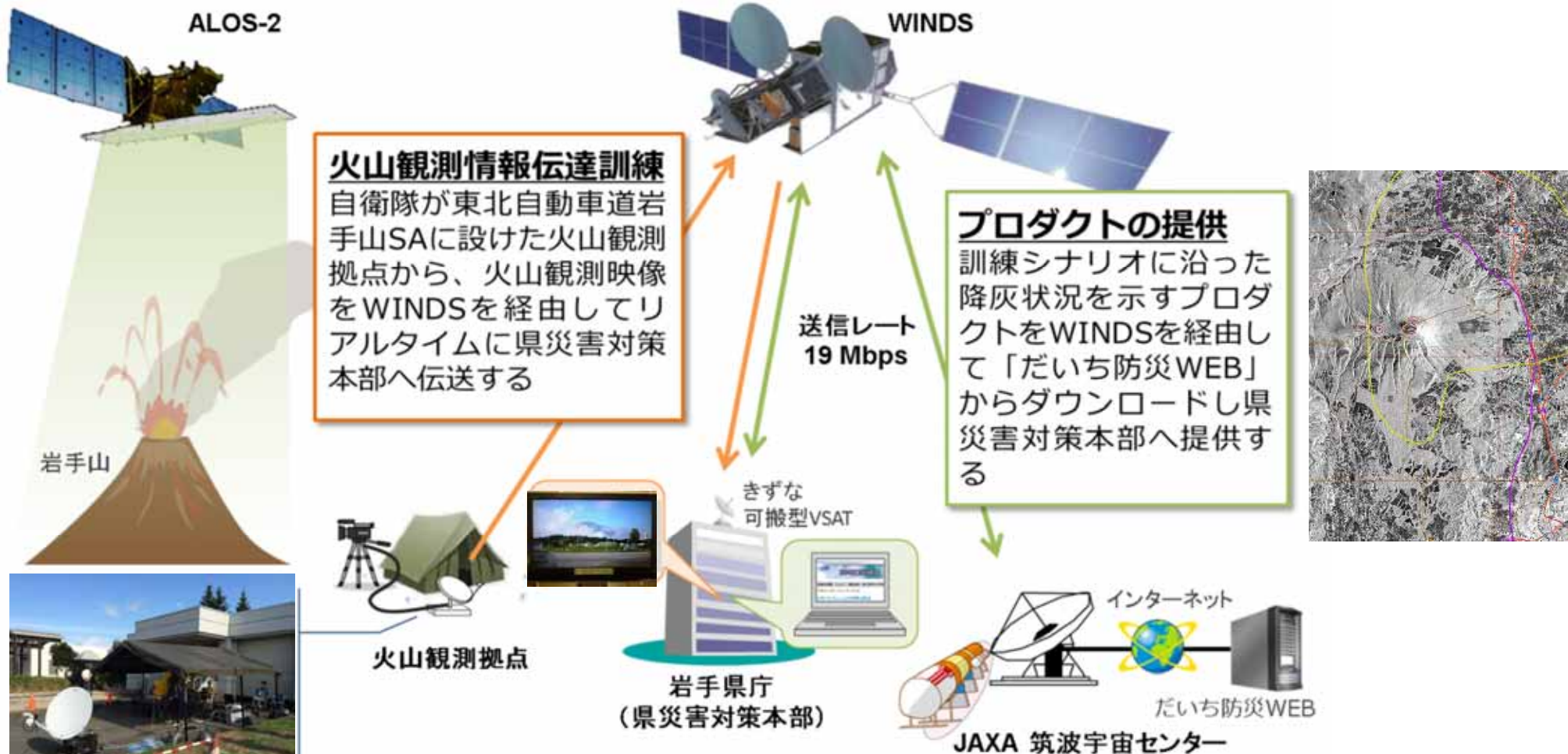
### <成果>

- ・データベースへの適合を確認
- ・DMAT隊員による地球局組立・操作の習熟が向上
- ・ヘリを利用し遠方被災地に迅速な地球局輸送が実現可能



# 平成26年度岩手県総合防災訓練

8月30日に、岩手県で開催された訓練で火山観測点を想定した東北道サービスエリアから、岩手県庁の災害対策本部への画像伝送を実施。合わせて「だいち2号」の観測画像を訓練に提供。



## <成果>

- ・だいち2号観測画像の防災訓練への活用を実証
- ・火山観測での利用可能性を実証

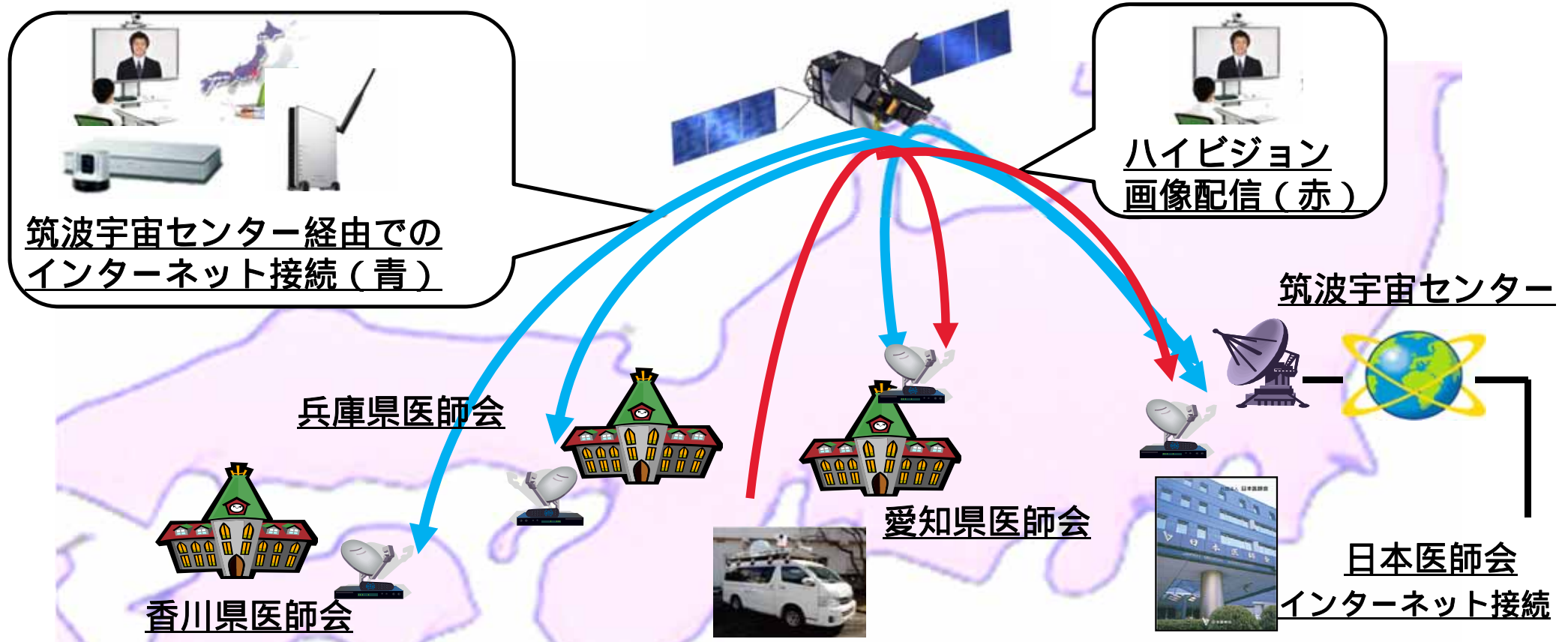
### ③ 日本医師会の災害医療活動支援

大規模災害発生時に日本医師会が都道府県医師会や関係機関と共同し**日本医師会災害医療チーム(JMAT)**を結成、以下の活動を実施

- ① 避難者に対する医療、健康管理
- ② 避難所等の公衆衛生対策：感染症対策（感染制御）、避難者の健康状態、食生活の把握とその改善
- ③ 在宅患者の医療、健康管理
- ④ 派遣先地域の医療ニーズの把握と評価
- ⑤ 医療支援が行き届いていない地域（医療支援空白地域）の把握、及び巡回診療等の実施
- ⑥ 患者移送
- ⑦ 再建された被災地の医療機関へのスムーズな引き継ぎ、等

⇒ 医師会本部と被災地医師会等との情報連絡手段は不可欠

## 11月20日南海トラフ大震災を想定した衛星利用実証実験(防災訓練)



### クラウド型医療情報システム (インターネット接続)

- ◆ クラウド・コンピューティングにより、被災地の医療ニーズ、カルテ等患者情報、避難所状況、移動手段等を情報共有
- ◆ 先発のJMATから後発JMATへの円滑な引継ぎ

### インターネットテレビ会議

- ◆ 電話のみでは、状況把握困難、集約に時間を要す
- ◆ 被災状況や派遣計画等の情報共有がいちどきに可能

平成26年度も12月に実証実験を実施予定